

平成30年7月版

那覇港管理組合の取り組み (物流)



Naha Port Authority

TEL : 098-868-4544 (企画室)

E-mail : kumiai@nahaport.jp

<http://www.nahaport.jp/>

那覇港管理組合 企画建設部 企画室

那覇港の全景

(陸域 約600ha 海域 約3,200ha)



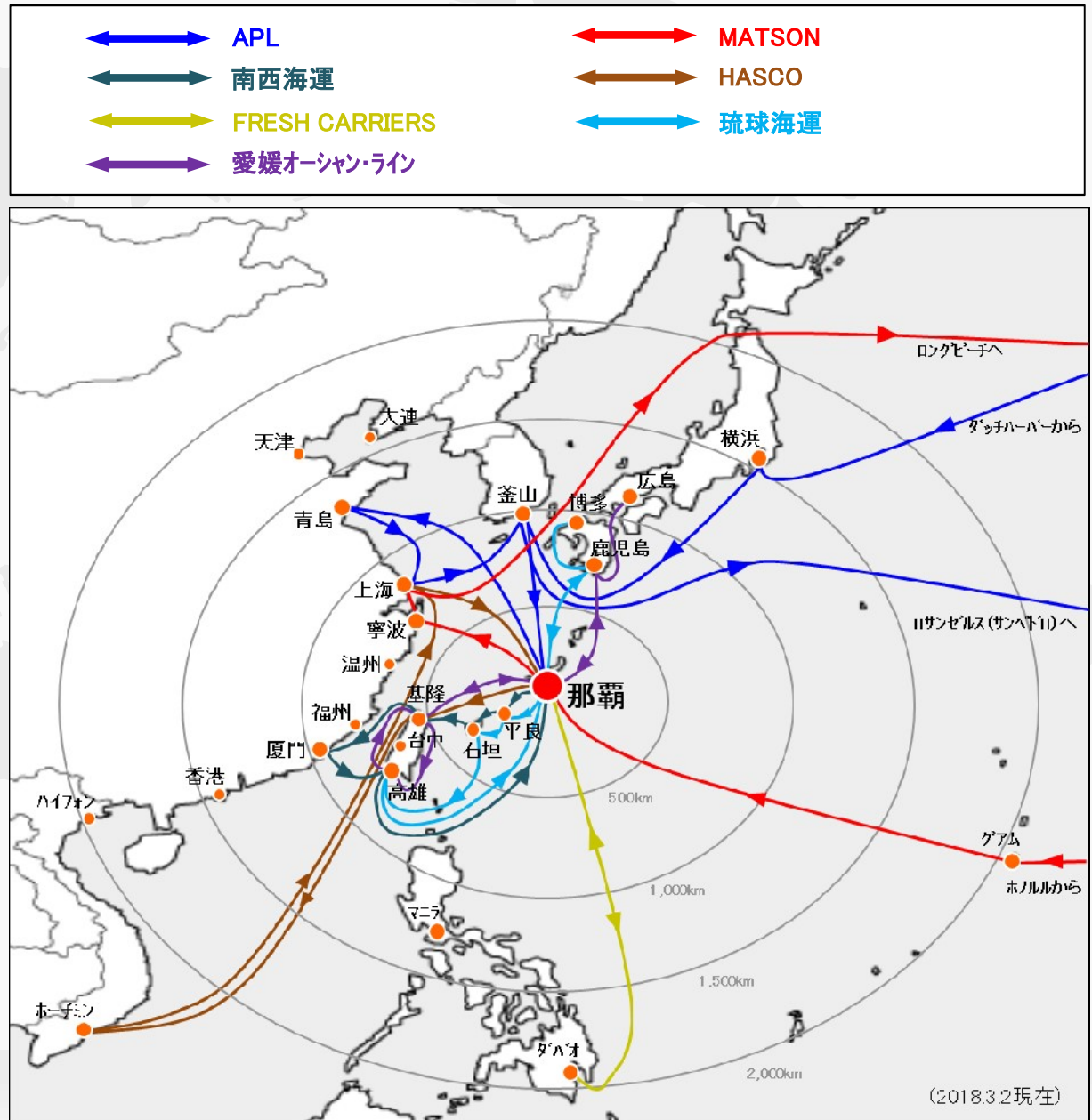
国際流通港湾としての位置づけ

- **県内重要港湾6港**の取扱貨物量(公共貨物)のうち、**那覇港**が占める割合は、内国貿易が**約6割**、外国貿易が**約9割**
- **那覇港と那覇空港の取扱貨物量**で、**那覇港**が占める割合は、**約97%** (2015年)
- 外貿・内貿コンテナの総取扱量は、541,470TEUであり、**我が国第7位** (2016年)
- 外貿コンテナ取扱量は、77,747TEUであり、**我が国第16位** (2016年)
- 内貿コンテナ取扱量は、463,723TEUであり、**我が国第3位** (2016年)

那覇港の定期航路(国外)

・外貿定期航路は、台湾、北米、中国、フィリピン、ベトナムを結ぶコンテナ航路が就航（7航路）

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※()は不定港	船名	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日					船社	
							月	火	水	木	金		土
北米	ロサンゼルスーオークランドーダッチハーバーー横浜ー釜山ー那覇ー青島ー上海ー釜山ーロサンゼルス(サンパド)ー オークランド	APL KOREA他数隻	フルコン	1/週	新港10	13 D			●				APL
	ロングビーチーホノルルーアブラクグアム>ー那覇ー寧波ー 上海 ーロングビーチ	MAUNA WILI他数隻	フルコン	1/週	新港10	36 H						●	
中国	※先島航路の延長 那覇ー平良ー石垣ー基隆ー 廈門 ー高雄ー那覇	せつ丸	一般貨物船	1/週	新港1・7・10	93 H		●					南西海運
	上海ー太倉ー那覇ー基隆ーホーチミンー太倉ー 上海	GLORY ZHENDONG他数隻	フルコン	1/週	新港9	96 H						●	HASCO
アジア	ダバオ<フィリピン>ー那覇(博多)ー(神戸)ー ダバオ<フィリピン>	PACIFIC VIOLET	冷凍コンテナ	1/2週	新港9	72 H	●						FRESH CARRIERS
台湾・東南アジア	※先島航路の延長 那覇ー平良ー石垣ー高雄ー那覇ー鹿児島ー博多ー鹿児島ー那覇	みやらびII	RO RO船	1/週	新港7	36 H						●	琉球海運
	高雄ー基隆ー那覇ー志布志ー門司ー三田尻中関ー松山ー広島ー大分ー那覇ー基隆ー 高雄	MYRIAD他1隻	フルコン	1/週	新港9	14 D							●

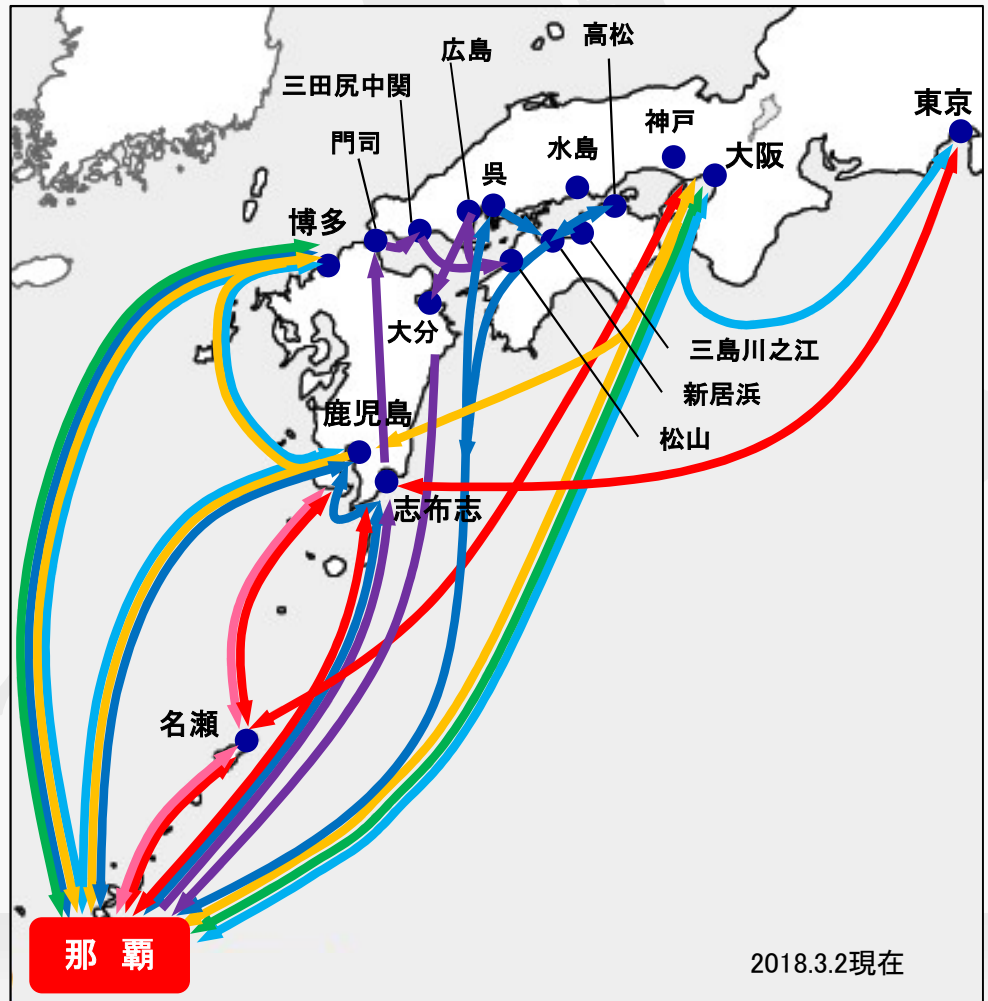
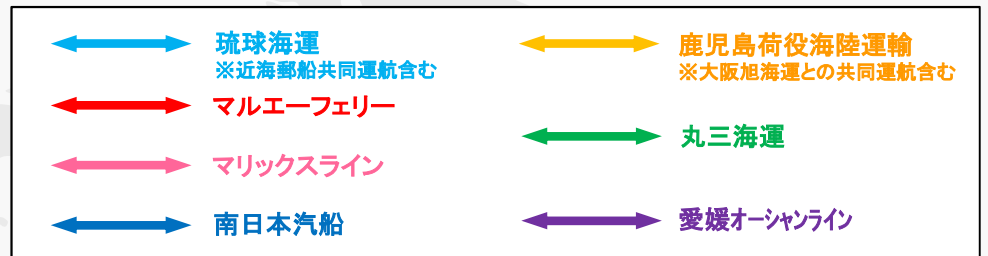


※所要時間は、那覇港発～最終港着までの所要時間であり、途中寄港地での停泊時間も含む

那覇港の定期航路(県外)

・県外は、東京、大阪、神戸、博多、鹿児島等を結ぶRORO船、一般貨物船等が就航（17航路）。

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※()は不定港	船名 ※青字は旅客も対応	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日							船社	
							月	火	水	木	金	土	日		
東京	那覇—大阪—東京—大阪—那覇	しゅり	RORO船	1/週	新港4・7	85H				●				近海郵船	
	那覇—(中城)—大阪—東京—大阪—那覇	にらいかない2	RORO船	1/週	新港5・6・7	60H		●						琉球海運	
	那覇—中城—大阪—東京—大阪—那覇	しゅれい2	RORO船	1/週	新港5・6・7	61H						●		琉球海運	
	那覇—(本部)—志布志—東京—(名古屋)—志布志—那覇	琉球エキスプレス5	RORO船	3/2週	新港5・7	43H							●	マルエーフェリー	
	那覇—(本部)—志布志—東京—(名古屋)—志布志—那覇	琉球エキスプレス3	RORO船	3/2週	新港5・7	43H							●	マルエーフェリー	
大阪	那覇—大阪—那覇	うりずん	一般貨物船	1/週	浦添1・2	37.5H	●							鹿児島荷役海陸運輸	
	那覇—大阪—鹿児島—那覇	りゅうせい	一般貨物船	1/週	浦添1	37H				●				鹿児島荷役海陸運輸	
	那覇—(伊予三島)—大阪—那覇	うりずん21	RORO船	1/週	浦添1	33H				●				丸三海運	
	那覇—(伊予三島)—大阪—那覇	海風	一般貨物船	3/2週	浦添7	36H	●					●		丸三海運	
	那覇—(伊予三島)—大阪—那覇	海邦2	一般貨物船	3/2週	浦添7	36H	●					●		丸三海運	
神戸	那覇—(本部)—名瀬—志布志—大阪—神戸—大阪—志布志—名瀬—那覇	琉球エキスプレス2	RORO船	3/2週	新港5・7	38H	●						●	マルエーフェリー	
	那覇—(本部)—名瀬—志布志—大阪—神戸—大阪—志布志—名瀬—那覇	琉球エキスプレス2	RORO船	3/2週	新港5・7	38H	●						●	マルエーフェリー	
瀬戸内	那覇—呉—新居浜<愛媛>—三島—玉島—高松—新居浜<愛媛>—那覇	りゅうなんⅢ	一般貨物船	1/週	浦添5	42.5H	●							南日本汽船	
	[高雄—基隆]—那覇—志布志—門司—三田尻中関—松山—広島—大分—那覇[—基隆—高雄]	MYRIAD他1隻 (※国外航路あり)	フルコン	1/週	新港9	14D							●		愛媛オーシャンライン
博多	那覇—博多—那覇	ちゅらしま	RORO船	2/週	新港7	24.5H	●						●	琉球海運	
	那覇—博多—那覇	わかなつ	RORO船	1/週	新港6・7	24.5H			●					琉球海運	
	那覇—博多—那覇	うりずん	一般貨物船	1/週	浦添1・2	32H							●	鹿児島荷役海陸運輸	
	那覇—博多—那覇	りゅうせい	一般貨物船	1/週	浦添3	27H	●							鹿児島荷役海陸運輸	
	那覇—博多—那覇	りゅうなん	一般貨物船	1/週	浦添1・3	29H							●	南日本汽船	
	那覇—博多—那覇	みーかじ	一般貨物船	3/2週	浦添8	43H	●						●	丸三海運	
	那覇—博多—那覇	なは2	一般貨物船	3/2週	浦添8	43H	●						●	丸三海運	
	那覇—鹿児島—博多—鹿児島—那覇	みやらびⅡ	RORO船	1/週	新港7	35H	●							琉球海運	
	那覇—鹿児島—博多—鹿児島—那覇	かりゆし	RORO船	1/週	新港6・7	38H			●					琉球海運	
	那覇—博多—鹿児島—那覇	わかなつ	RORO船	1/週	新港6・7	25H							●	鹿児島荷役海陸運輸	
鹿児島	那覇—鹿児島—那覇	うりずん21	RORO船	1/週	浦添1	24H							●	鹿児島荷役海陸運輸	
	那覇—鹿児島—那覇	隆山丸	一般貨物船	1/週	浦添2	28H							●	鹿児島荷役海陸運輸	
	那覇—中城—志布志—鹿児島—那覇	りゅうなんⅡ	一般貨物船	1/週	浦添4・5	28H	●							南日本汽船	
	那覇—本部—与論—和泊—奄徳—名瀬—鹿児島—名瀬—和泊—与論—本部—那覇	フェリーあけぼの	フェリー	1/4日	那覇2	25.5H								●	マルエーフェリー
	那覇—本部—与論—和泊—奄徳—名瀬—鹿児島—名瀬—和泊—与論—本部—那覇	フェリー渡之上	フェリー	1/4日	那覇2	25.5H								●	マルエーフェリー



※所要時間は、那覇港発～最終港着までの所要時間であり、途中寄港地での停泊時間も含む

2018.3.2現在

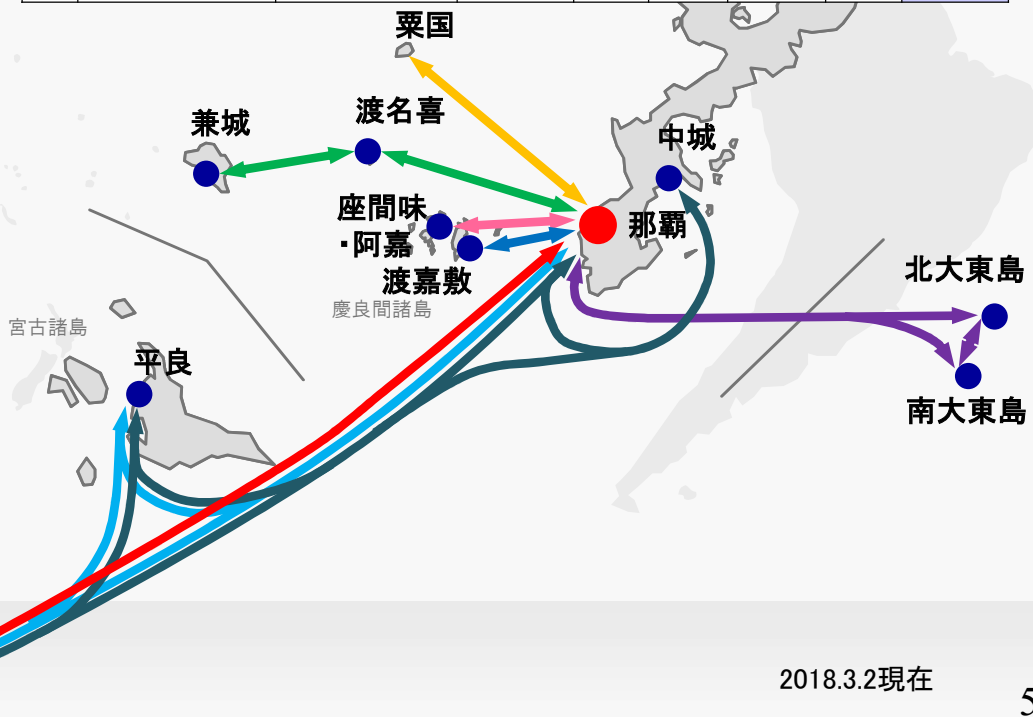
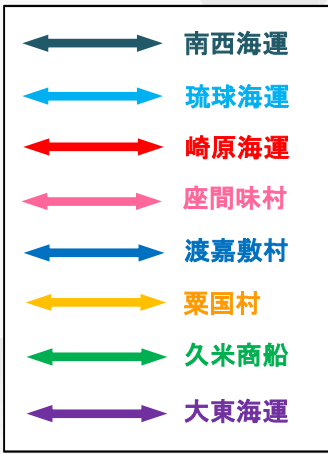
那覇港の定期航路(県内)

・県内は、先島を結ぶRORO船・一般貨物船(7航路)、周辺離島を結ぶフェリー・高速船(5航路)が就航(計12航路)

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※()は不定港	船名 ※青字は旅客も対応	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日							船社
							月	火	水	木	金	土	日	
先島	那覇-石垣-那覇	はりみず	一般貨物船	1/週	新港1・3	18H	(2隻で運行調整)							南西海運
		ちよ丸	一般貨物船	1/週	新港1・3	18H								南西海運
		陽光丸	一般貨物船	6/月	新港1	24H								崎原海運
	那覇-石垣-平良-那覇	かりゆし	RORO船	1/週	新港6・7	21H	●							琉球海運
		陽光丸	一般貨物船	3/月	新港1	38H	●							崎原海運
	那覇-石垣-与那国-那覇	ちゆらしま	RORO船	1/週	新港7	16H	●							琉球海運
		優昭丸	一般貨物	3/週	新港6	26H	● ● ● ● ●							琉球海運
	那覇-平良-(伊良部)-石垣-那覇	よね丸	一般貨物船	2/週(不定)	新港1	18.5H	月~金出港 (2隻で運航調整)							南西海運
		なんせい丸	一般貨物船	2/週(不定)	新港1	18.5H								南西海運
		はりみず	一般貨物船	1/週	新港1・3	50H	(2隻で運行調整)							南西海運
		ちよ丸	一般貨物船	1/週	新港1・3	50H	●							南西海運
	那覇-中城-那覇-平良-石垣-那覇	せつ丸(※国外航路あり)	一般貨物船	1/週	新港1・7・10	20H	●							南西海運
みやらびII(※国外航路あり)		RORO船	1/週	新港7	16H	●							琉球海運	

区分	寄港地 ※赤字は最終港 ※()は不定港	船名 ※青字は旅客も対応	船種	寄港頻度	接岸岸壁	所要時間	那覇港出港曜日	船社
周辺離島	那覇-阿嘉-座間味-阿嘉-那覇	フェリー-ざまみ3	フェリー	1/日	泊6	2H	毎日	座間味村
		フェリー-とかしき	フェリー	1/日	泊5	1H	毎日	渡嘉敷村
	那覇-渡嘉敷-那覇	フェリー-とかしき	フェリー	1/日	泊5	1H	毎日	渡嘉敷村
		マリンライナー-とかしき	高速船	2/日	泊7	35M	毎日	渡嘉敷村
	那覇-粟国-那覇	フェリー-粟国	フェリー	1/日	泊3	2H	毎日	粟国村
	那覇-渡名喜-兼城<久米島>-渡名喜-那覇	フェリー-琉球	フェリー	1/日	泊2	4H	毎日	久米商船
		フェリー-ニューくめしま	フェリー	1/日	泊2	4H	毎日	久米商船
	那覇-北大東島・南大東島-那覇	だいとう	貨客船	6/月	泊1	13.5H	不定	大東海運

※所要時間は、那覇港発~最終港着までの所要時間であり、途中寄港地での停泊時間も含む

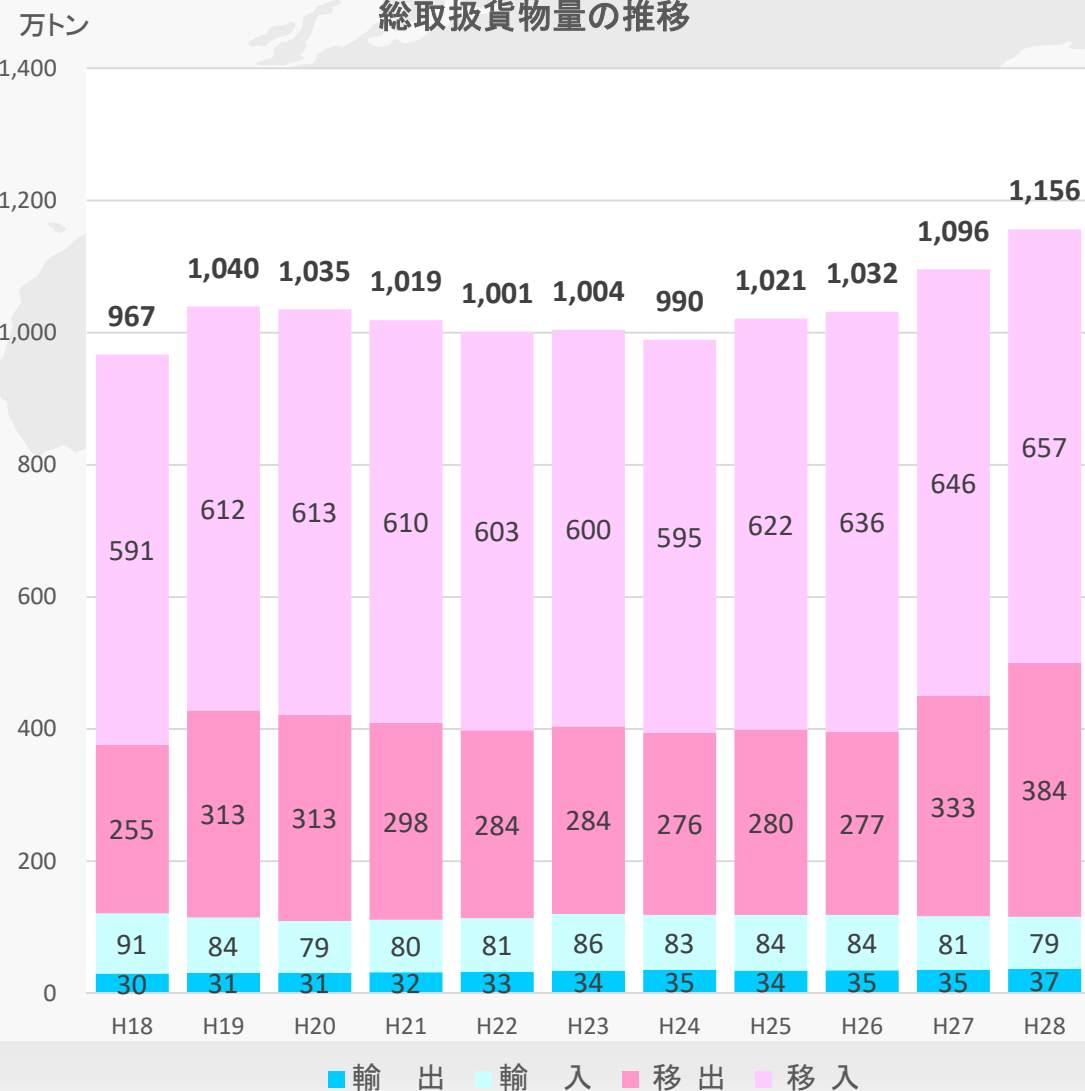


2018.3.2現在

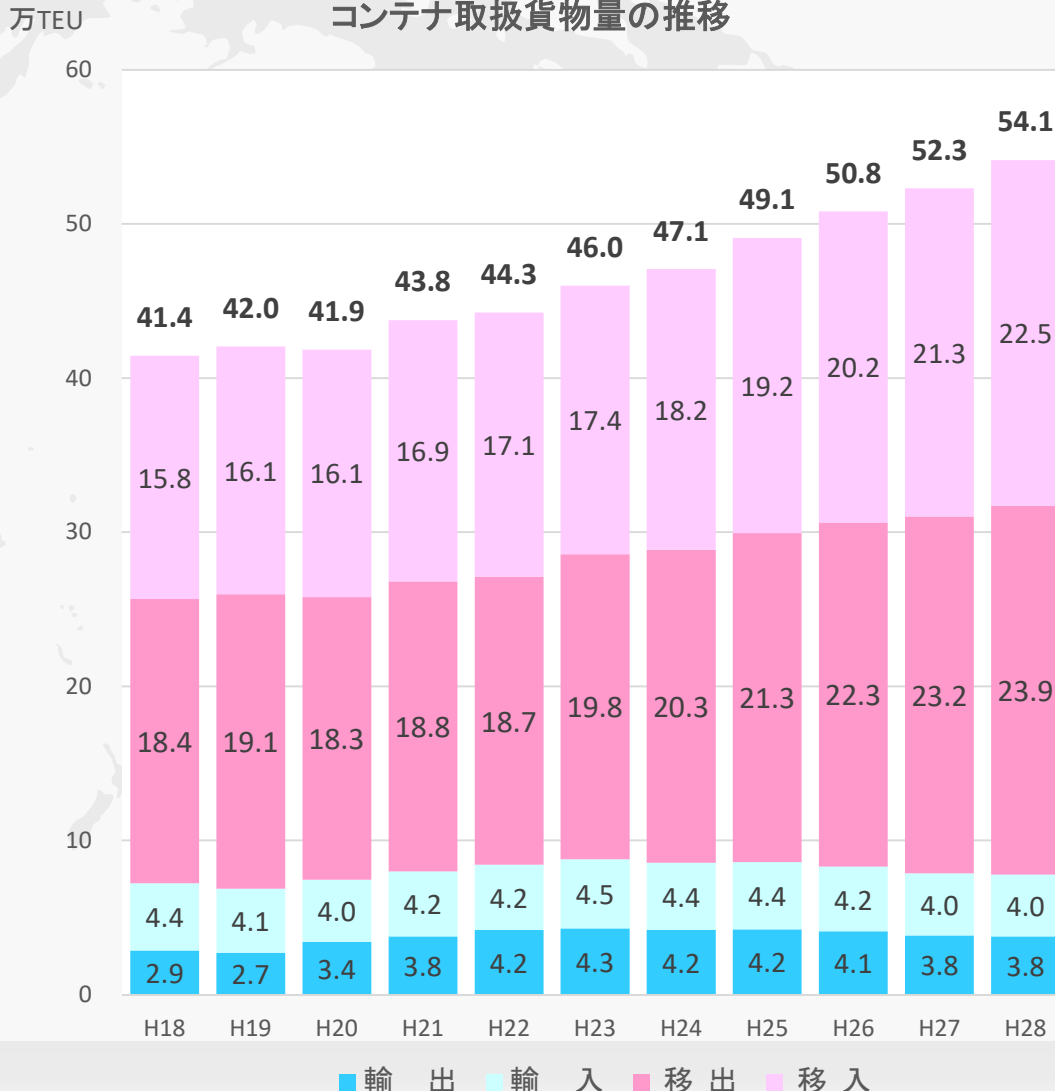
那覇港取扱貨物量の推移

- ・那覇港の総取扱貨物量は、平成24年以降増加を続け、平成28年に過去最高の1,156万トン进行記録。入域観光客数の増加等を受け、平成27年以降の内貿貨物量の伸びが顕著。
- ・コンテナ取扱貨物量も増加を続け、平成28年に過去最高の54.1万TEU进行記録。

総取扱貨物量の推移



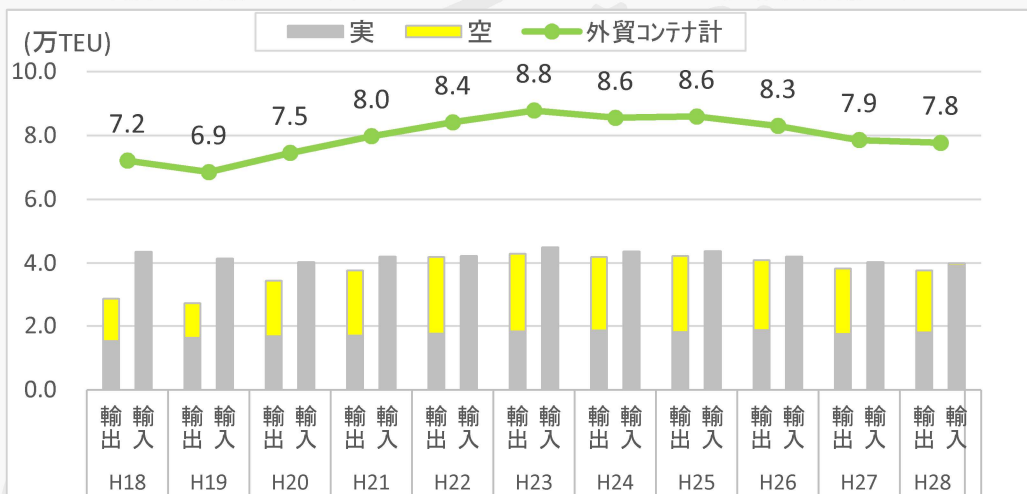
コンテナ取扱貨物量の推移



内外貿取扱コンテナ貨物量の推移

外貿コンテナ貨物実入・空別貨物量の推移

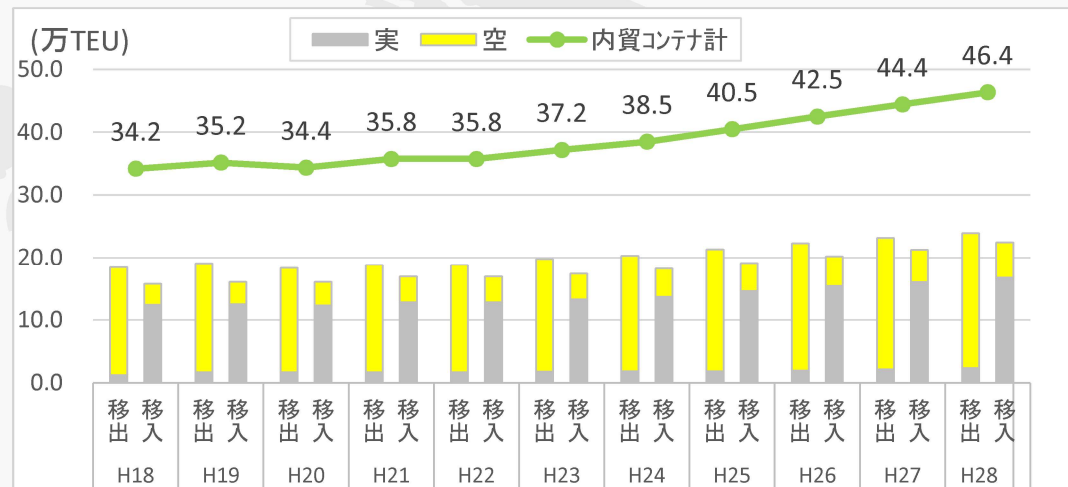
【課題】輸出の半分以上は空コンテナである。(片荷輸送)



年	輸出入別	実	空	外貿コンテナ計
H18	輸出	15,306	13,247	72,140
	輸入	43,587	0	
H19	輸出	16,295	10,862	68,576
	輸入	41,419	0	
H20	輸出	16,759	17,432	74,574
	輸入	40,383	0	
H21	輸出	17,020	20,712	79,797
	輸入	42,065	0	
H22	輸出	17,564	24,341	84,153
	輸入	42,126	122	
H23	輸出	18,302	24,600	87,849
	輸入	44,947	0	
H24	輸出	18,594	23,342	85,560
	輸入	43,521	103	
H25	輸出	18,115	24,097	85,970
	輸入	43,610	148	
H26	輸出	18,717	22,252	82,996
	輸入	41,916	112	
H27	輸出	17,484	20,884	78,605
	輸入	40,191	46	
H28	輸出	18,039	19,730	77,747
	輸入	39,218	760	

内貿コンテナ貨物実入・空別貨物量の推移

【課題】内貿コンテナ貨物は外貿以上に片荷。



年	移出入別	実	空	内貿コンテナ計
H18	移出	12,325	172,070	342,265
	移入	123,781	34,089	
H19	移出	16,669	174,491	351,857
	移入	125,164	35,533	
H20	移出	16,560	166,833	343,953
	移入	123,081	37,480	
H21	移出	17,039	171,294	357,751
	移入	127,905	41,513	
H22	移出	17,039	171,294	357,615
	移入	127,905	41,377	
H23	移出	18,063	179,781	372,085
	移入	132,608	41,633	
H24	移出	18,567	184,546	385,147
	移入	136,960	45,074	
H25	移出	18,598	194,876	404,974
	移入	146,043	45,458	
H26	移出	19,570	203,633	425,200
	移入	154,401	47,596	
H27	移出	21,207	210,484	444,399
	移入	160,148	52,561	
H28	移出	23,690	215,531	463,723
	移入	167,239	57,263	

注1)表中の単位:TEU 注2)平成21年10月にANAハブ開始

貨物増大の取組（那覇港の課題解決に向けて）

那覇港における取扱貨物量増大の取組

那覇港輸出貨物増大促進事業（平成25年度～）

【船社対象の実証実験】

那覇港に新規寄港する船社を支援する「実証実験」により、新規航路開設・定着への課題や方策の検討を行う。
（平成29～33年度（予定））



ソフト事業

【輸出荷主対象の実証実験】

那覇港から輸出する荷主等を支援する「社会実験」により、輸送コストやリードタイム等を検証し、物流コストの低減や輸送システムの改善等の検討を行う。



貨物量の増加
新規航路の定着

相乗効果

ハード事業

○総合物流センター整備事業

貨物の増加、物流の効率化

○ガントリークレーン等整備事業

物流コストの低減・雇用の創出等

将来（長期）

国際物流拠点の実現（貨物の増大、物流の効率化、競争力強化）

台湾TIPCとのパートナーシップ港に関する 合意書(MOU)の締結

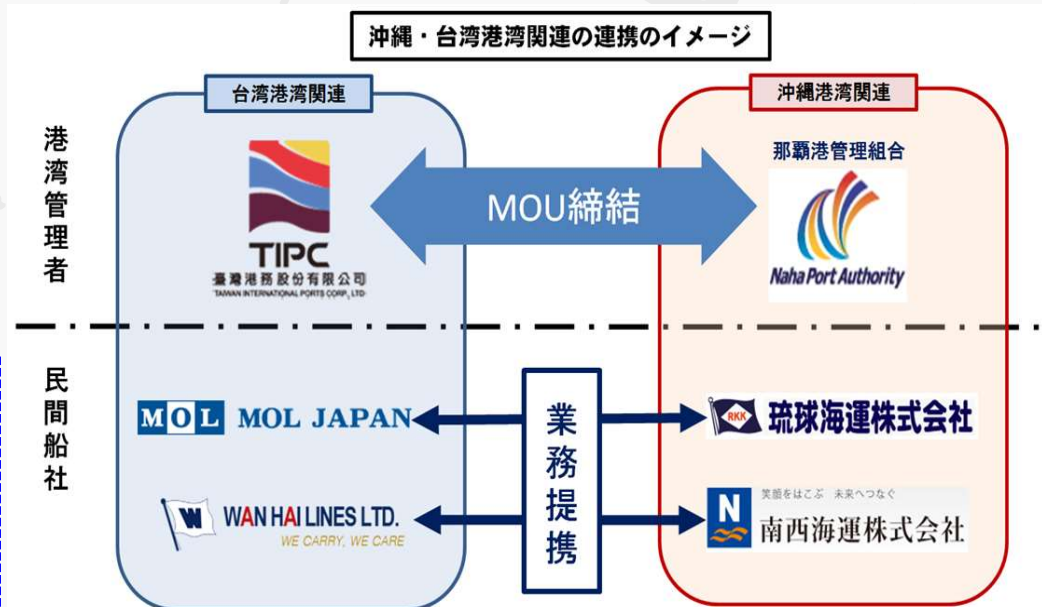
平成27年4月21日に台湾高雄市において、台湾の主要港(高雄港、基隆港等)を管理運営する台湾港務株式会社(TIPC)と那覇港管理組合との間で、物流及び人流に関する交流を促進させ、相互理解と長期的な提携関係強化を図るため「パートナーシップ港に関する合意書(MOU)」を締結しました。

【MOU締結の合意内容】

1. 便利で良質な人流、物流サービスの提供に共同で努める。
2. 両港湾間における物流サービス等の向上に取り組む。
3. 海運に関する情報交流の強化、共有に取り組む。
4. 人員の交流と人材育成に努める。
5. 地場産業等の交流や提携を促進させる

■台湾港務株式会社(TIPC: Taiwan International Ports Corporation)

- ①TIPCは、2012年3月1日に設立された台湾政府が全額出資する港湾運営会社である。
- ②設立以前は主要港湾に行政機関として港務局が置かれ、港湾運営の他、港湾業務行政・航路行政など複数の業務を担当してきた。この業務のうち、港湾運営についてはTIPCが行うこととなり国際港7港(高雄港、台北港、基隆港、他4港)と国内港2港を統括管理している。



那覇港輸出貨物増大促進事業(荷主対象) 事業スキーム(平成30年)

○「那覇港輸出貨物増大促進事業(荷主対象)」とは、実証実験として、輸出貨物などを対象に補助を行うとともに、コストやリードタイム等を検証し、物流コストの低減や輸送システムの改善等の検討を行うものです。

○より多くの方に利用頂けるように、従来の「増加貨物に対する補助」(2階)に加え、輸出貨物全体に対する「基礎的な補助」(1階)を新たに追加します。(1階と2階それぞれに1申請者当たりの上限額を設定、中古車は輸出の重点品目として、別スキームで整理)

I. 基本メニュー

(中古車を除く)

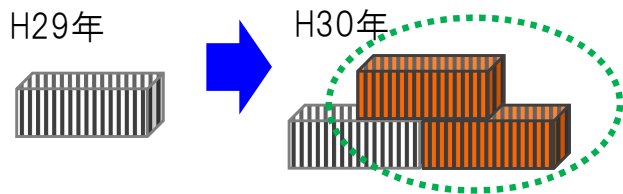
増加貨物に対する補助(2階)

【1申請者当たりの上限額】

コンテナ単位と自走貨物の合計:50万円
混載貨物:15万円

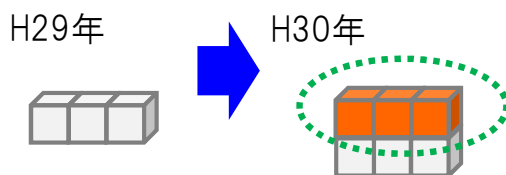
コンテナ貨物

コンテナ単位の増加分に対して補助します。



小口混載貨物

M³単位の増加分に対して補助します。



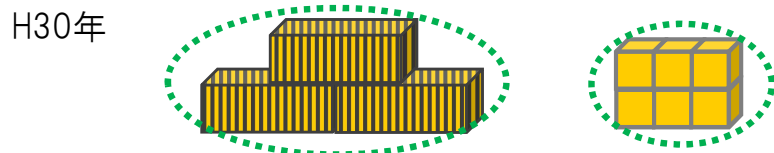
全輸出貨物に対する補助(1階)

【1申請者当たりの上限額】

コンテナ単位と自走貨物の合計:30万円
混載貨物:10万円

コンテナ貨物・小口混載貨物

平成30年に輸出した貨物量(コンテナ及びM³単位)に対して補助します。



II. 中古車メニュー

全輸出貨物に対する補助

【1申請者当たりの上限額】なし

中古車

平成30年に輸出した台数に対して補助します。

H30年



台湾貨物に対する上乗せ補助

台湾向け、台湾経由の輸出貨物には上乗せで補助します。



平成30年 補助メニュー

那覇港輸出貨物増大促進事業(荷主対象)

I. 基本メニュー(中古車を除く)

増加貨物に対する補助(2F)

【1申請者当たりの上限額】
コンテナ単位と自走貨物の合計:50万円、混載貨物:15万円

分類	区分	概要	貨物種類	補助金単価	
				ドライ貨物	リーファー貨物
A 重点貨物	①大量貨物 ※輸出計画書を提出	大量かつ継続して増加が見込める輸出貨物	コンテナ貨物	20ft:15,000円/個 40ft:22,500円/個 10,12ft:10,500円/個	20ft:75,000円/個 40ft:112,500円/個 10,12ft:52,500円/個
	②少量貨物	少量の輸出貨物	コンテナ貨物	20ft:15,000円/個 40ft:22,500円/個 10,12ft:10,500円/個 混載:3,000円/M3	20ft:75,000円/個 40ft:112,500円/個 10,12ft:52,500円/個 混載:15,000円/M3
B 一般貨物		分類Aを除く輸出貨物	コンテナ貨物	20ft:10,000円/個 40ft:15,000円/個 10,12ft:7,000円/個 混載:2,000円/M3	20ft:50,000円/個 40ft:75,000円/個 10,12ft:35,000円/個 混載:10,000円/M3
			自走貨物	300円/M3	—
C 台湾貨物 (分類A、Bに 上乘せ)		分類A、Bのうち台湾向け、又は台湾でトランシップする貨物	コンテナ貨物	20ft:10,000円/個 40ft:15,000円/個 10,12ft:7,000円/個 混載:2,000円/M3	20ft:50,000円/個 40ft:75,000円/個 10,12ft:35,000円/個 混載:10,000円/M3
			自走貨物	300円/M3	—

全輸出貨物に対する補助(1F)

【1申請者当たりの上限額】
コンテナ単位と自走貨物の合計:30万円、混載貨物:10万円

分類	概要	貨物種類	補助金単価	
			ドライ貨物	リーファー貨物
全輸出貨物	那覇港から輸出される全ての貨物	コンテナ貨物	20ft:2,000円/個 40ft:3,000円/個 10,12ft:1,400円/個 混載:400円/M3	20ft:10,000円/個 40ft:15,000円/個 10,12ft:7,000円/個 混載:2,000円/M3
		自走貨物	60円/M3	—

II. 中古車メニュー

(全輸出貨物に対する補助)

【1申請者当たりの上限額】 なし

分類	概要	貨物種類	補助金単価
D 中古車	今後、継続して那覇港からの輸出が見込める中古車(トラックを除く) ※輸出計画書を提出	コンテナ又は自走貨物	30,000円/台
E 台湾貨物 (分類Dに上乘せ)	分類Dのうち台湾向け、又は台湾でトランシップする貨物	コンテナ又は自走貨物	4,000円/台

※1)補助金額の決定

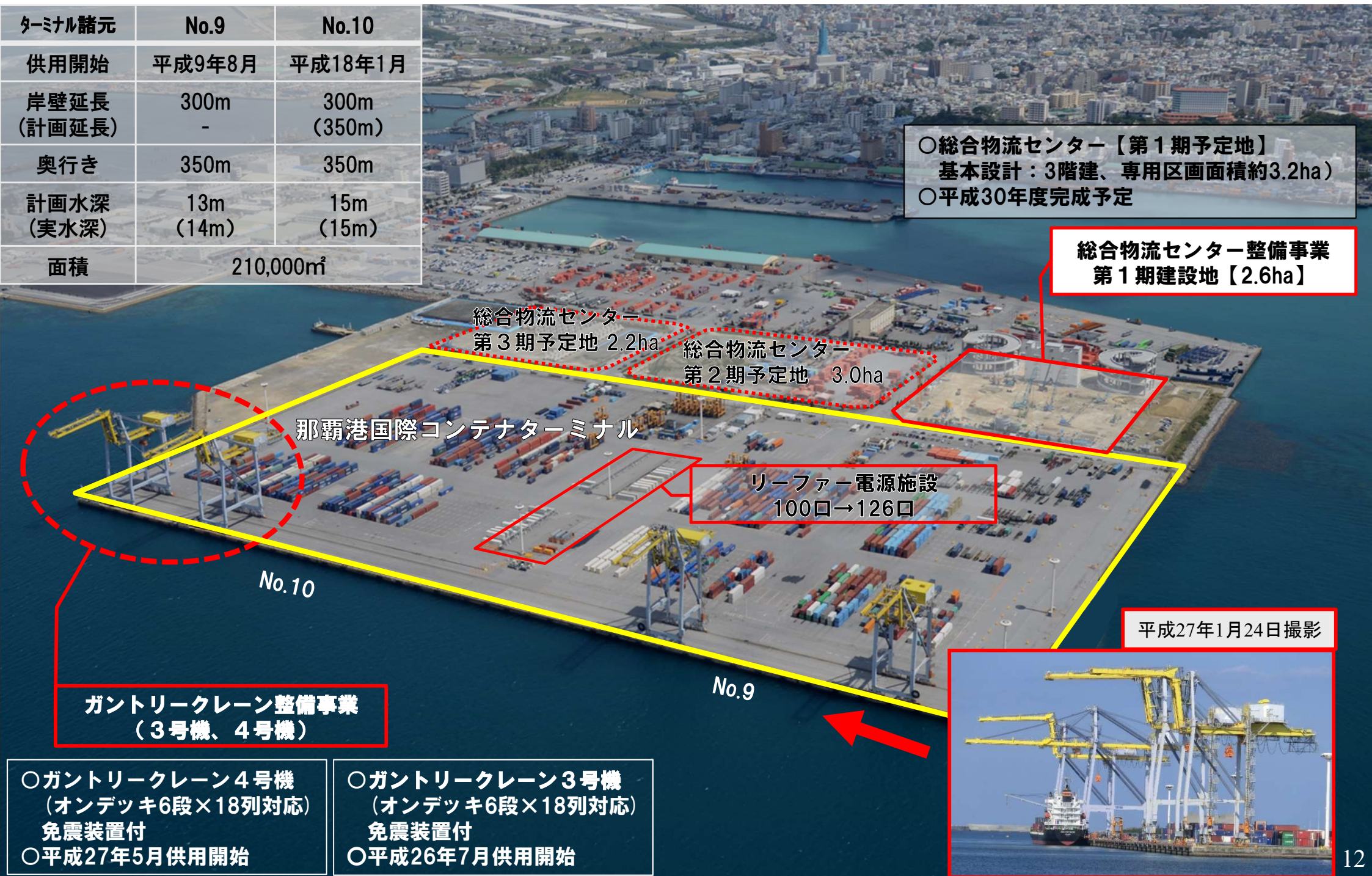
補助金額は当該事業の予算の範囲内において、事務局において決定します。

※2)1申請者当たりの上限額の設定

補助メニュー	コンテナ単位と自走貨物の合計	混載貨物
全輸出貨物への補助(1階)	30万円	10万円
増加貨物への補助(2階)	50万円	15万円
中古車	なし (ただし、平成31年以降の上限額の設定については、平成30年の結果をみて検討する予定)	

国際コンテナターミナルの施設整備事業の概要

ターミナル諸元	No.9	No.10
供用開始	平成9年8月	平成18年1月
岸壁延長 (計画延長)	300m -	300m (350m)
奥行き	350m	350m
計画水深 (実水深)	13m (14m)	15m (15m)
面積	210,000㎡	



○総合物流センター【第1期予定地】
基本設計：3階建、専用区画面積約3.2ha)
○平成30年度完成予定

総合物流センター整備事業
第1期建設地【2.6ha】

総合物流センター
第3期予定地 2.2ha

総合物流センター
第2期予定地 3.0ha

那覇港国際コンテナターミナル

リーファー電源施設
100口→126口

平成27年1月24日撮影

ガントリークレーン整備事業
(3号機、4号機)



○ガントリークレーン4号機
(オンデッキ6段×18列対応)
免震装置付
○平成27年5月供用開始

○ガントリークレーン3号機
(オンデッキ6段×18列対応)
免震装置付
○平成26年7月供用開始

新体制による那覇港公共国際コンテナターミナル運営事業

平成27年12月、那覇港管理組合は、国内外に幅広いネットワークを持つ国内有数の総合物流企業である三井倉庫株式会社が中核企業として参入した新NICTIと、平成28年1月から10年間の賃貸借契約を更新締結しました。



那覇港公共国際CT賃貸借契約調印式の様子 (H27年12月22日)
左: 田原口 誠 NICTI 代表取締役社長
右: 金城 勉 那覇港管理組合 常勤副管理者

新NICTIとの賃貸借契約の概要

- 賃借人 : 那覇国際コンテナターミナル株式会社 (NICTI : Naha International Container Terminal Incorporation)
中核企業 : 三井倉庫株式会社
- 契約期間 : 平成28年1月1日～平成37年12月31日 (10年間)
- 目標取扱貨物量 : 25万TEU

○ 那覇港公共国際コンテナターミナル運営事業

(事業の概要)

沖縄振興計画に位置づけられた「民間主導による自立経済の構築」を支援するため、那覇港新港ふ頭地区の9号及び10号ターミナルを、一体的に運営可能な能力を有する民間企業に長期貸付け、事業者の創意工夫による効率的な運営により、国際競争力の向上を図り、国際海上輸送コストの低減や航路誘致による産業立地、雇用拡大を実現することを目的としたプロジェクトです。

(事業の目標)

- ◆ 那覇港公共国際コンテナターミナルの整備促進及び利用効率の向上を図り、国際競争力を高める。
- ◆ 那覇港公共国際コンテナターミナルの国際コンテナ貨物量の増大、海上運賃の低減を図る。

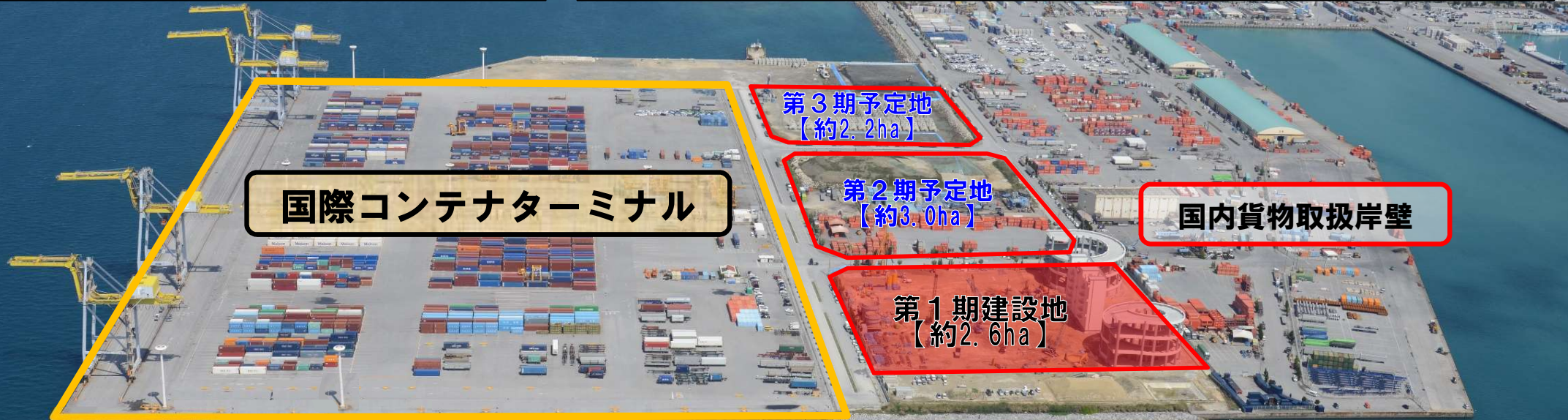
那覇港総合物流センター整備

那覇港総合物流センター整備概要(第1期)

- 整備主体:那覇港管理組合
- 事業期間:平成25年度～平成30年度
 - 平成26年度:実施設計
 - 平成27～30年度:建設工事
- 施設概要:3階建、専有区画面積 約3.2ha
マルチテナント型

○整備理念

那覇港総合物流センターは、本県の生活・産業関連貨物の大部分を占める港湾貨物を取り扱う那覇港において、集貨・創貨を促進することにより取扱貨物の増加を目指し、物流の高度化を図るとともに、流通加工等の新たな価値を生み出す付加価値型産業の集積を図る総合物流施設として整備するものである。



【那覇空港との位置関係】



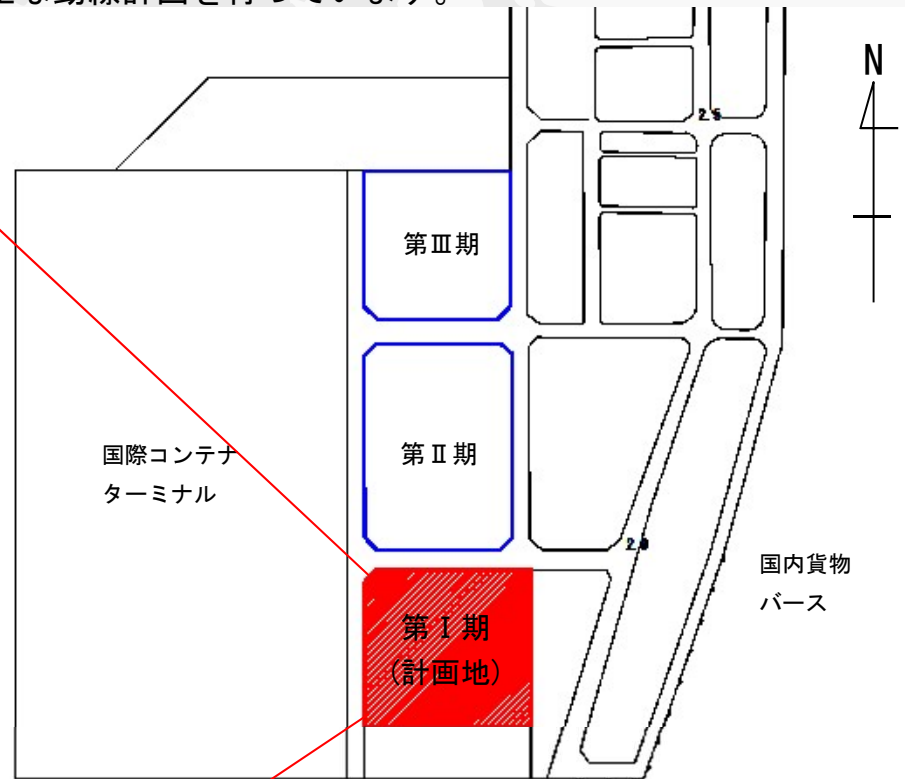
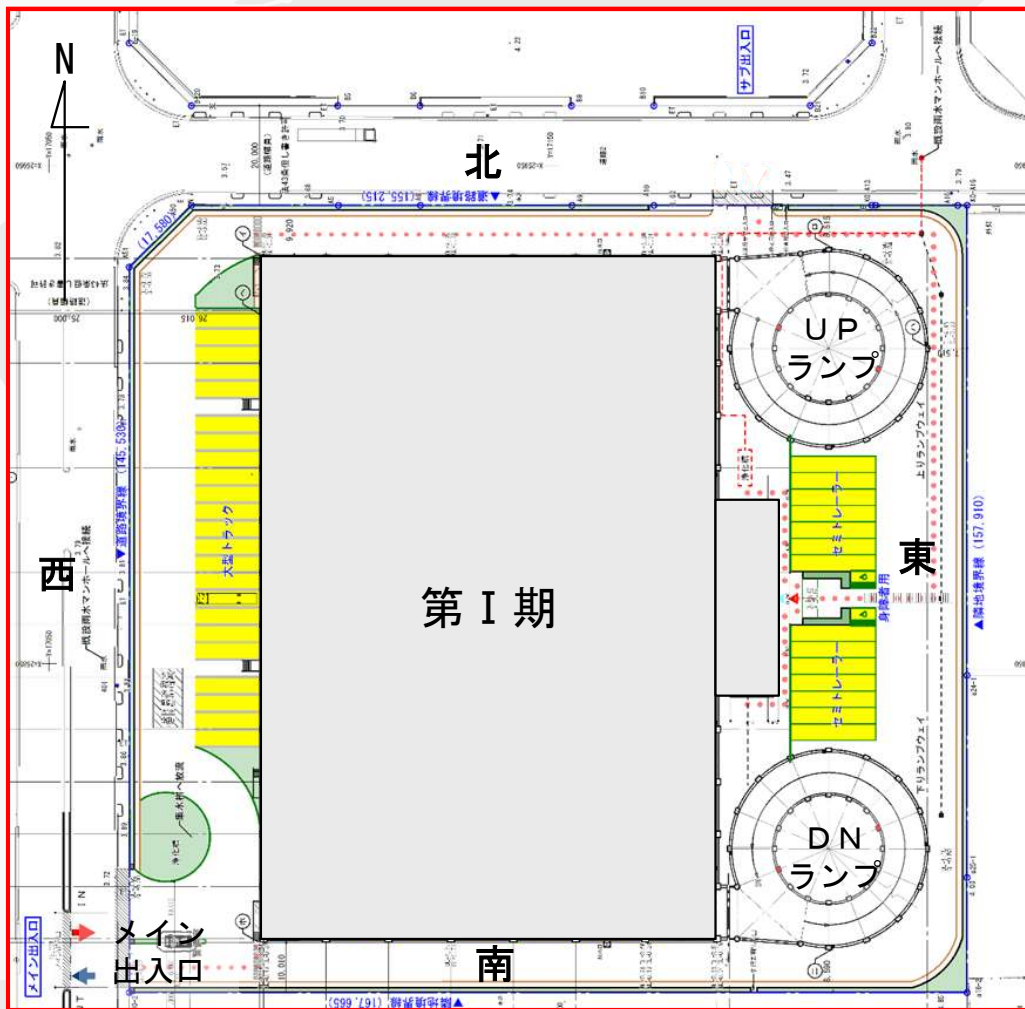
□那覇港総合物流センターの敷地は、那覇国際コンテナターミナルと国内貨物の取り扱い岸壁の間に位置していることから、国際物流機能の集積を促進する総合物流センターの建設に適した場所である。

□那覇港と那覇空港を結ぶ「那覇うみそらトンネル」が開通したことでアクセスが向上しており、海上貨物と航空貨物とのSea and Airによる連携が進むと総合物流センターの需要は高まると予想される。

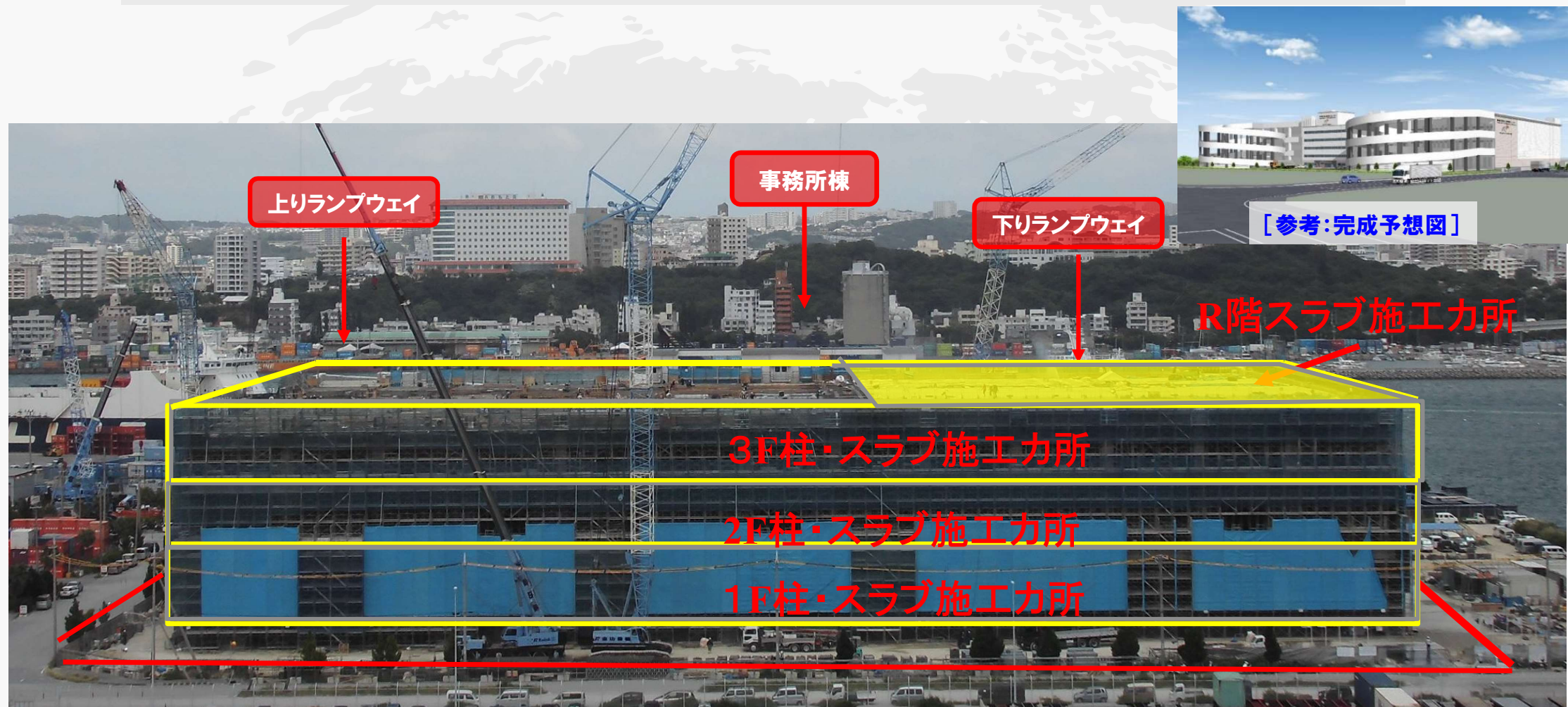
[参考:那覇港総合物流センター配置計画]

- ・西側に幅員25mの臨港道路、北側に幅員20mのふ頭内道路に接し南側は緑地(計画)を挟み海に面している約2.6haの敷地です。
- ・敷地四方に幅員約6mの周回できる敷地内通路を配置しました。また、歩道も設置し歩車道を分け、安全に利用できるよう計画を行っています。
- ・敷地境界沿いには、緑地帯を設け、周辺環境に考慮した計画を行っています。
- ・敷地東側に上がり専用ランプウェイと下り専用ランプウェイを配置し、安全な動線計画を行っています。

配置計画



各階施工状況(平成30年6月29日撮影)



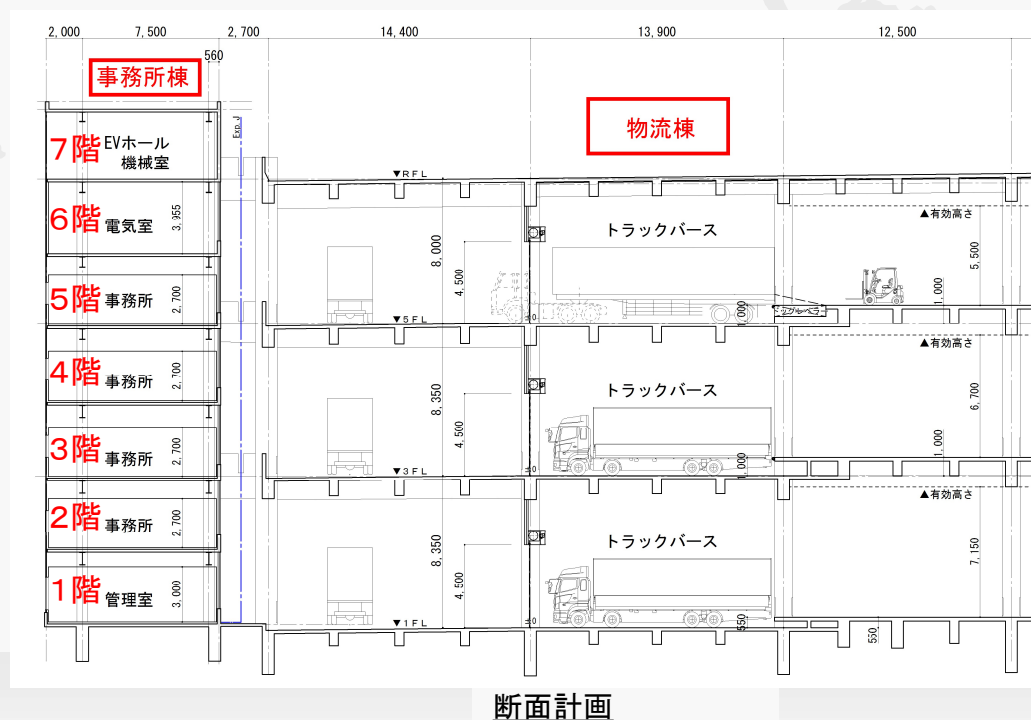
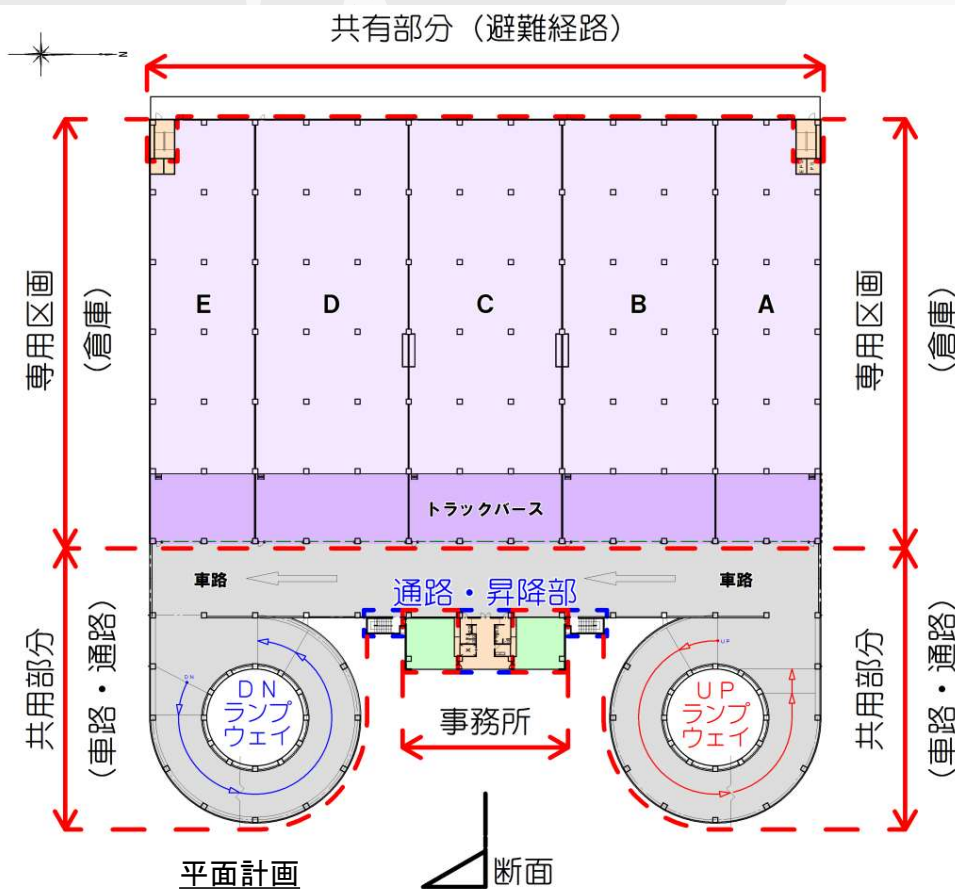
国際コンテナターミナルから撮影

那覇港総合物流センター 平面計画

- 物流棟の専用区画は、1階部分を冷凍・冷蔵倉庫専用、2階部分を冷凍・冷蔵・ドライ対応、3階部分はドライ倉庫対応。
- 物流棟の各階専用区画の間仕切り壁は移動可能としており、複数の区画を専用することも可能。
- ランプウェイ及び車路を挟んで専用区画と事務所部分を配置。
- 各区画内の整備は、必要最小限とする「スケルトン貸し」、冷凍・冷蔵施設に必要な設備等も入居者によって準備。

物流棟各階仕様	面積	倉庫部床レベル
1階：冷凍・冷蔵専用	約10,495㎡	+550mm
2階：冷凍・冷蔵・ドライ	//	+1,000mm
3階：ドライ専用	//	+1,000mm

物流棟（各フロア5区画設置）	面積（㎡、坪）	
A、E区画	約1,629㎡	約490坪
B、C、D区画	約2,412㎡	約730坪
5区画合計	約10,495㎡	約3,180坪



【那覇港総合物流センターのコンセプト】

東アジアの中心に位置する那覇港の特性を活かし、
東アジアネットワークと国内ネットワークを繋ぐ国際物流拠点

【国際輸送】

- ・外貿コンテナ船
- ・航空機

【価値付加機能】

競争力の高い貨物を創出する機能

那覇港 ロジスティクス・ハブ

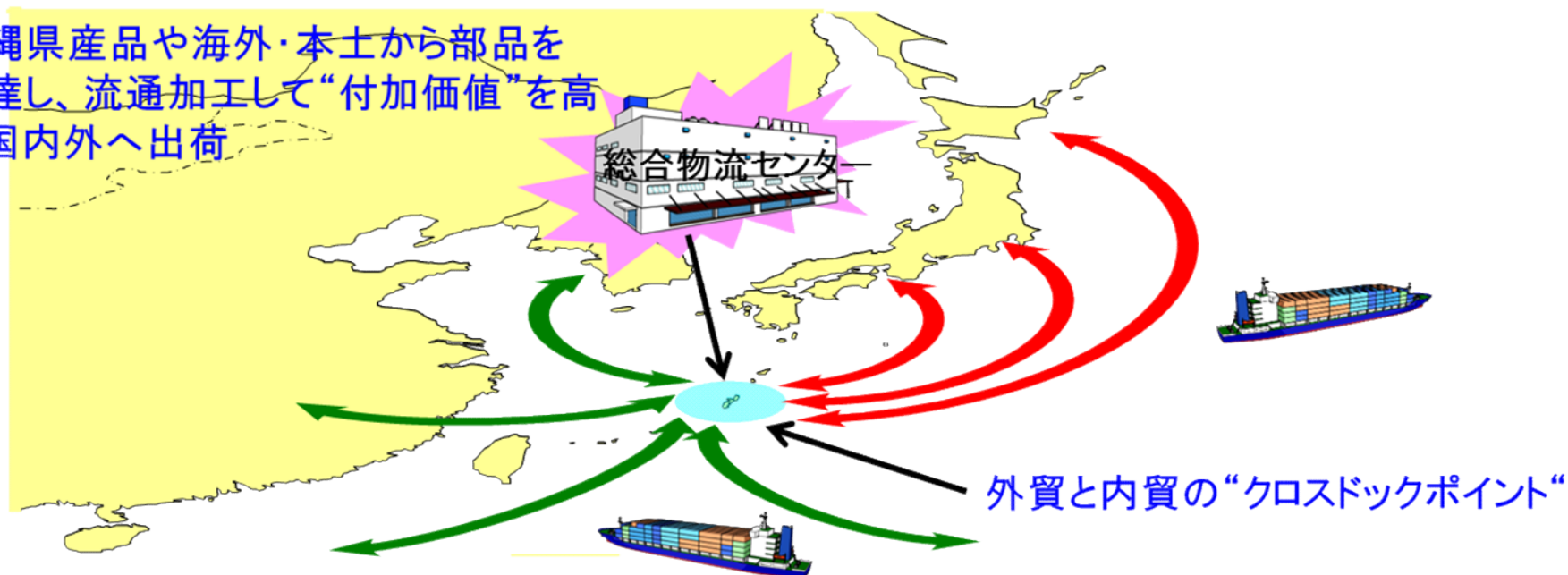
【物流高度化機能】

東アジアの物流結節拠点(クロスストックポイント)としての機能

【国内輸送】

- ・内貿定期船
- ・トラック
- ・航空機

沖縄県産品や海外・本土から部品を
調達し、流通加工して“付加価値”を高
め国内外へ出荷

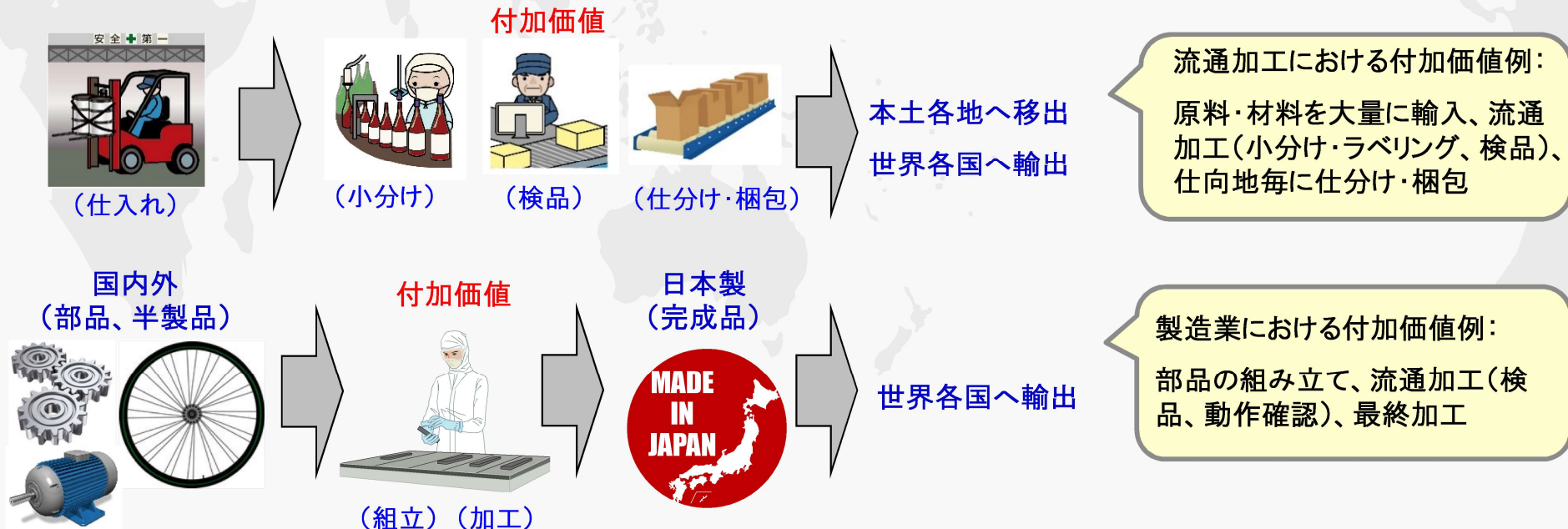


[那覇港総合物流センターの導入機能のイメージ]

①物流の高度化：保管、積み替え、検査、混載



②付加価値の高い貨物を創出



当地区に上記のような組立加工企業を誘致するため、各種優遇制度を活用できる“国際物流拠点産業集積地域”に指定

那覇港総合物流センター 事業方式・スケジュール

事業方式:PFI法に基づく貸付(維持管理・運営型PFI)

- 那覇港管理組合が施設を整備し、SPCが運営を行う公設民営方式。
- 那覇港管理組合は、施設を所有したうえで、公有財産貸付契約に基づきSPCに貸し付ける。
- SPCは、PFI法に基づき、独立採算事業として本事業を実施する。
- 内装や設備はSPC又はテナントが整備する「スケルトン方式」。



事業スケジュール

		平成29年度												平成30年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
那覇港総合物流センター新築工事 (物流棟・上部工)			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
運営 事業者 選定	公募期間	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■													
	審査・選定									■	■	■													
	基本協定・契約締結											■	■												
	入居準備・内装設備工事													■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

那覇港総合物流センター運営事業 事業契約締結までの経緯とSPC構成

日程	内容
平成29年 1月30日	実施方針等の公表
3月16日	特定事業選定結果の公表
3月31日	募集要項等の公表
11月30日	提案書の受付締切
平成30年 1月17日	提案書の審査（第7回選定委員会）
1月30日	優先交渉権者選定の公表
2月26日	基本協定の締結
2月28日	客観的評価の結果等の公表
3月6日	SPC：(株)那覇港総合物流センターの設立
3月26日	事業契約の締結
平成31年 4月	開業予定

琉球プロジェクト

代表
企業

- ・ 琉球海運株式会社

構成
企業

- ・ 株式会社ニチレイ
- ・ ロジグループ本社
- ・ 那覇地域貨物運送協同組合
- ・ 株式会社沖縄日本管財

協力
企業

- ・ 沖縄港運株式会社
- ・ 株式会社沖縄急送
- ・ 国際輸送株式会社
- ・ 沖縄県黒砂糖協同組合
- ・ 琉球物流株式会社
- ・ 琉球通運株式会社
- ・ マルエー物流株式会社
- ・ 日本管財株式会社

那覇港と国際物流拠点産業集積地域の位置関係

那覇港総合物流センター予定地は、
「国際物流拠点産業集積地域」に含まれております。

当該地域では、税の優遇制度等を利用
することが可能です。

那覇港総合物流センターからの交通アクセス
⇒那覇空港 約7km 約15分
⇒うるま市旧特自貿 約30km 約45分

(参考)

旧:那覇地区・那覇空港地区・那覇港地区



※旧3地区の区域(上図青枠内)は、新たに指定した那覇・浦添・豊見城・宜野湾・糸満地区の区域に内包されている。

国際物流拠点産業集積地域は平成26年6月にエリアが拡大しました。

那覇・浦添・豊見城・宜野湾・糸満地区

距離: 約30km
時間: 約45分



うるま・沖縄地区 ※下図の赤枠内



※上図の青枠・斜線部分は、旧うるま地区(特自貿)の区域

那覇港管理組合



沖縄県那覇市通堂町2番1号
TEL: 098-868-2578
FAX: 098-868-2629
URL: <http://www.nahaport.jp/>
E-mail: kumiai@nahaport.jp

アジアをつなぐ 国際物流拠点を目指して

那覇港総合物流センター(Ⅱ期・Ⅲ期)
2018年度可能性調査実施予定

国内貨物取扱岸壁

那覇港公共国際
コンテナターミナル

那覇港総合物流センター(Ⅰ期)
2019年4月開業予定